本書の構成と使い方

本書は読むだけで輸血の基本が「よくわかる」ように構成してあります．内容は原則として「1ページにつき1項目」です．各項目は1～3の要素で構成されています．それぞれの特徴をつかむことで，スムーズに内容を理解できます．

第 3 章 ｜ 輸血検査の実際 ▸ 1. ABO血液型検査

チャート 15 輸血前検査の重要度と優先度

1

大切なポイントをまとめた図表で概要をチェック！

2

輸血前には，ABO血液型検査，RhD血液型検査，赤血球不規則抗体検査を行います．

輸血することが確実な場合には，交差適合試験も行います．

輸血前検査には，ABO血液型検査，RhD血液型検査，交差適合試験，赤血球不規則抗体検査の4種類があります．それらの重要度と優先順位を図示しました．実施頻度を○□の大きさで示しています．

緊急O型赤血球輸血例を除き，まず，患者さんのABO血液型とRhD因子の検査をします（通常は異なる検体で2回）．この検査は適合血を選択するために必須です．

さらに赤血球不規則抗体検査は，初回はもちろん再輸血前には毎回行います．前回の輸血で新たな赤血球不規則抗体ができていないかどうかを確認するためです．

予想出血量が多い手術では交差適合試験を行い血液を患者さん用に確保しておきますが，出血の可能性が低い（30%以下）場合は「T＆S法」（*Note* 参照）による血液準備が行われるため，交差試験は行わない状態で手術が開始されます．

3

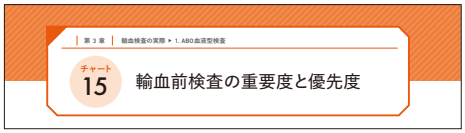
Note 血液型・不規則抗体スクリーン（type & screen：T&S）法

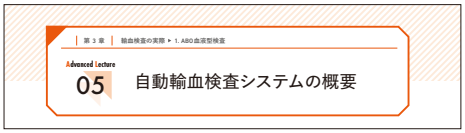
出血が少なく手術中の輸血の可能性が低い待機手術での血液準備法．患者さんのABO/RhD血液型と不規則抗体を検査しておき，RhD陽性で不規則抗体陰性の場合は，交差試験は行わないで手術に臨みます．術中，予想外に輸血が必要になった場合，生食法の交差試験（緊急度によってはABOオモテ検査，生食法主試験だけ）を行って，すぐ輸血します．

52 よくわかる輸血学 第4版

1　内容は難易度により二つに分かれています．基本的内容を記したチャート（題の背景が濃い赤）と少し専門的な内容のAdvanced Lecture（薄い赤）です．チャートはわずか60ページです．まず，チャートだけ読むのがおすすめです！

チャートとAdvanced Lectureに加えて下記の3つの臨床に即した記述があります．

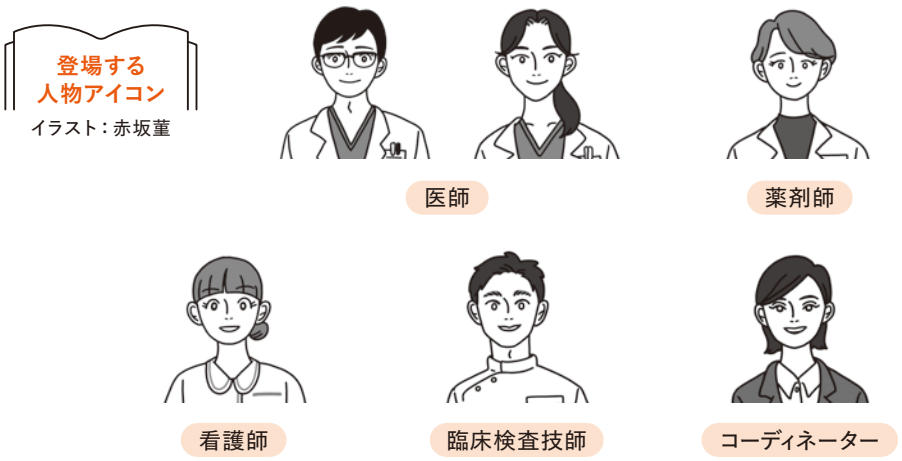




実践のポイント：実際の現場で失敗しがち/注意が必要なポイントです．
患者さんから学ぶ：実症例をもとに具体的な考え方を説明します．
Q&A：筆者が質問されることの多い用語などを解説しています．

2　以下の職種のアイコンが登場します．

アイコンになっている職種の方が必ず押さえておきたい重要点が記載されていますので，**自分と同じ職種のアイコンが出てきたら要チェック**！



3　用語説明や補足情報をNoteやTipsの形で紹介しています．コラムでは，実際に若手医師からあがった輸血に関する疑問に筆者が回答しました．